

荒川(下流域・上流域)流域治水協議会
【第2回 令和4年8月の大雨を踏まえた今後の対策検討】
議事概要

日時: 令和4年12月16日(金) 10:00~11:05

会場: 村上地域振興局 2階 大会議室

議事(1)

令和4年8月の大雨を踏まえた「荒川水系流域治水プロジェクト」【案】及び「荒川水系緊急治水対策プロジェクト」(烏川・春木山大沢川)【案】について

【主な質問・意見】

(村上市長)

●田んぼダムの推進について

田んぼダムの推進では、市全体の耕作地 6500ha に対して 1627ha の耕作地が手を挙げており、実施は 1200ha である。この面積差(1627ha-1200ha)の要因は、エリアの 50%を超えないと、多面的な加算措置(多面的機能支払い交付金による補助)が生じないためであり、現場で丁寧に対応しながら、田んぼダムの面積を広げていくことが必要である。

下流域と上流域の田んぼダムの普及には、“上が下を守る、下が上に守られながら全体として流域治水に取り組んでいる”という意識の醸成も大切で、国・県・市が連携していければと思う。

●春木山大沢川の二線堤整備について

今回、集中的に行う春木山大沢川の河道拡幅、二線堤整備、輪中堤整備は、非常に有効な仕組みと思う。輪中堤の高さはG L(現況の高さ)から 80cm 程度(※現在検討中)、二線堤(堤防)の高さはG Lから 1~2m 程度(※現在検討中)の高い箇所もあり、堤防が住家に隣接しているところでは、住家1階からの景色が変わる。堤防上を車両が通る場合、道路ネットワークの考え方もあるが、住家に対する影響が心配される。地域住民のコンセンサスを得ていくためには、丁寧な説明とこの整備が効果的な仕組みであることを理解してもらう進め方が大切であり、慎重に行っていきたい。

（関川村長）

●高田集落（前川）の治水対策について

高田集落では 70 数世帯のほとんどが床上浸水で、集落に流入した水量は太田沢川より前川の影響が大きい。太田沢川は災害復旧で堤防を整備してもらおうが、前川はそういう意味での災害復旧になっていない。“坂町の対策”の新聞報道を受け、高田集落でも整備に対する期待が大きい。

プロジェクト（案）には“高田排水樋管改良工事”と書かれているが、前川の名前が書かれていない。高田集落から見た場合、“ゲートのフラップ化”で今回の災害が改善されるわけもなく、“排水ポンプ車の迅速な配備”で治水能力が改善するわけでもない。高田集落では、大きな影響を受けている前川の治水対策を求めている、地域にとってはショッキングな内容になる。

今後、前川についてもスケジュールを立てて対策を行い、住民を安心させるメッセージをプロジェクトに入れてもらいたい。

（村上地域整備部長）

前川については、今年度中に対策検討のための測量を実施することになっており、坂町地区で予定しているような二線堤も含めた流域治水対策を、今後関係機関と連携しながら検討を進めていきたい。令和 4 年度末を目途に案を作り、地域住民に説明できる計画を進めていきたい。地域住民が、“案をどのように受け止めるか”が重要なポイントになるため、スケジュールを含めて関川村と連携しながら進めていきたい。

（事務局）

プロジェクトについて、再度新潟県と調整し、修正したものを示したい。

（胎内副市長（市長代理））

●防災施設の老朽化に対する更新について

今回の豪雨では、首長宛てにホットラインで連絡を頂き、情報交換を綿密にさせて頂いたことが非常に心強く、正確な情報を迅速に受けることができた。

当市では、昭和 42 年の羽越水害で大きな被害をうけ、その後河川改修、砂防ダム等を整備して頂き、今回大きな被害はなかった。しかし、各施設が老朽化してきた状況を踏まえ、国・県に砂防ダムなどを含め防災施設の更新をお願いしたい。

（小国副町長（町長代理））

●河川掘削等 河道維持について

今回の豪雨災害の降水量が、場所によっては昭和 42 年の羽越水害の記録を上回る中、羽越水害以降、国交省から砂防ダム等を整備してもらい、42 年羽越水害のような土石流

災害は皆無であった。50年に及ぶ砂防事業の効果を改めて感じた。

資料に荒川上流域の災害復旧箇所が示されているが、今回の豪雨によって、従前の荒川の流れが変わってしまったものと理解している。豪雨以前の水の流れを確保して頂くなどの取り組みをお願いしたい。

（事務局）

●まとめ

プロジェクト内容の修正について新潟県と調整し、修正後のプロジェクトを提案させて頂く。

議事（２）

今後の予定

（事務局）

“令和４年８月の大雨を踏まえた「荒川水系流域治水プロジェクト」及び「荒川水系緊急治水対策プロジェクト」”について、修正したものを確認して頂いたうえで公表させて頂く。公表については、記者発表、羽越河川国道事務所ホームページでの掲載を予定している。

次回の協議会は、“「荒川水系流域治水プロジェクト」及び「荒川水系緊急治水対策プロジェクト」”の取り組み状況確認、多段階浸水想定、リスクマップ公表に向けた確認などの内容で、令和５年３月頃の開催を予定している。

— 以上 —